

Google Lunar X PRIZE 人類初の月面探査レース

日本唯一のチーム“HAKUTO”が参戦!!

Google Lunar X PRIZE とは!!

世界初の月面探査レースのことです。その目的は、人類の挑戦する心を刺激し、宇宙ビジネスの育成や月資源の開発・利用を実現することです。また、月への困難な挑戦を世界の人たちに公開することで、これまでの宇宙開発に対して、新しい技術や考え方を取り入れていこうとする人たちに、さらなる宇宙への挑戦を駆り立てることも重要な目的としています。

このレースは次の3つのミッションをはやくクリアすることを競います。

- ①月面に純民間開発ロボット探査機を着陸させる。
- ②着地点から500m以上移動する。
- ③高解像度の動画や静止画データを地球に送信する。



画像：月（JAXA ホームページより）



(C) HAKUTO

画像：HAKUTOの月面探査機 SORARTO

日本から”HAKUTO”が参戦!!

HAKUTOとは、民間による宇宙開発を目指している団体で、Google Lunar X PRIZEに参加します。メンバーは約60人。“ispace”という企業や“東北大学吉田研究室”また“プロボノ”と呼ばれるボランティアで構成しています。

月面探査レースでは、ロケットの打ち上げや、月面への着陸、探査機（ローバー）の開発など多くの課題がありました。しかし、HAKUTOは、課題を克服し、世界10カ国以上16チームの民間組織が参加表明した月面探査レースの最終フェーズ（段階）に残った5チームの中の1つのチームです。

技術チームリーダー 吉田 和哉 教授

8才の頃に「アポロ11号」月面着陸の映像を目にし、天文学に惹かれ、今なお宇宙への情熱を燃やし続ける国内トップの宇宙工学博士です。東北大学大学院で教鞭を執られながら、“HAKUTO”の技術チームリーダーとして、月面探査機（ローバー）の総合的な開発指揮を執るのが吉田教授です。吉田教授は、「はやぶさ」が小惑星イトカワのサンプルを持ち帰る方法を開発したプロジェクトの一員でもあります。

月面を走行する際に大きな課題となるのが月面の砂への対応と、月面の激しい温度変化の対応。これらの課題をクリアしたのが、吉田教授が開発されたHAKUTOの月面探査機”SORARTO”です。



画像：吉田和哉教授